



What makes me happy is to watch T.V.

タウンシップの街角で撮影に集まってくれた子どもです。「撮影するよ」というとみんな群がるんですけど、それでもちゃんと秩序があって、ほどよいMerry感がありましたね。戦後復興する頃の日本にも似たロマンチックさを感じました



When I am with my mother.

撮影中にハイになると、どんどん近寄ってしまっただけでどこかに行ってしまうんです。この写真もピントがあってない、けどMerryを伝える写真としてはこれもOK。気持ち優先の“こころ度”が高い写真ですよ

南アで素敵な笑顔に出会えたのは偶然ではない その状況へ自分を導くことも撮影のうち

南アフリカ共和国(以下、南ア)での撮影の準備は、キューバで撮影しているときにスタートしました。キューバ滞在中に、負の遺産がある国に暮らす人のほうが笑顔がよい、と気がついたのです。南アはアパルトヘイトで知られている通り、白人と黒人、ミックスがいて貧富の激しい土地。きつとよい笑顔が撮れると思ったのです。とはいっても、半ば勘でしたけれど。ただ、南アはイギリスの植民地だったから、人々もどこかラプリーでエレガント、チャームングといった、品の良さを備えている予感がしたのです。それらは、Merryな写真を撮るのに欠かせない要素です。

南アといえば、観光客なら喜望峰にでも行くでしょうけれど、僕らが向かったのはタウンシップという貧しい黒人たちのエリア。普通よそ者が訪れる場所ではありません。せいたくなんものな何もないし、孤児の問題、エイズなどが深刻な問題を抱えている場所ですが、足を踏み入れると子どもたちが集ってくるのです。貧しいけれどものすごい元気。その後、バラックが並ぶ街の中にある、コンテナでできた学校も訪れました。そこでは、ひとつのコンテナに30〜40人がすし詰め、やはり貧しい孤児のような子どもばかり。彼らは教科書も買えない。先生だってボランティア。けれども、写真を撮り始めると、笑顔の渦が巻き起こります。貧しいけれども、すごく生き生きとしている。一方、制服を着て通うまともな学校でも撮影したのですが、そこにはあまり元気がない。やっぱり貧しい子こそ元気でMerryで強いものを持っている。それに同じ笑顔でも深みがあるのです。

今はデジカメもあるから、技術は十分じゃなくてもよい写真が撮れてしまう。むしろ下手に撮るほうが難しい。けれども、いい被写体に出会うには、そのためのデレクション、プロデュースが欠かせない。僕は、よい写真を撮る状況に身を置くことも実力のうちだと思えます。僕の写真は一見ドキュメンタリーに見えますが、実はコーディネートに「どの国でどんな写真を撮るか」を伝えたとこから撮影がスタートしているのです。今回は「南アの貧しい地区の黒人たち」というのがそのデレクション。偶然だけいい写真は撮れません。撮れる状況を生み出すことは技術よりも重要で、シャッターを押す行為そのものは撮影全体の5パーセント以下。撮りたいものからさかのぼってストーリーを構築しているわけです。

南アの場合、その流れにうまく導かれたので、いくらでもよい写真が撮れた。5〜6日で710人、1日に100人以上。こちらからも撮ってもらうためにエネルギーを使うからたいへんですが、それだけ撮ることが楽しかったのです。そして、熱くなっただけでシャッターを切りまくって、心を通わせながらもポーンと自分の存在感を消してしまふ。不思議なものでそんな瞬間に、素敵な笑顔に恵まれるし、いい写真が撮れる。そうやって僕を心酔させてくれたのが南アなのです。

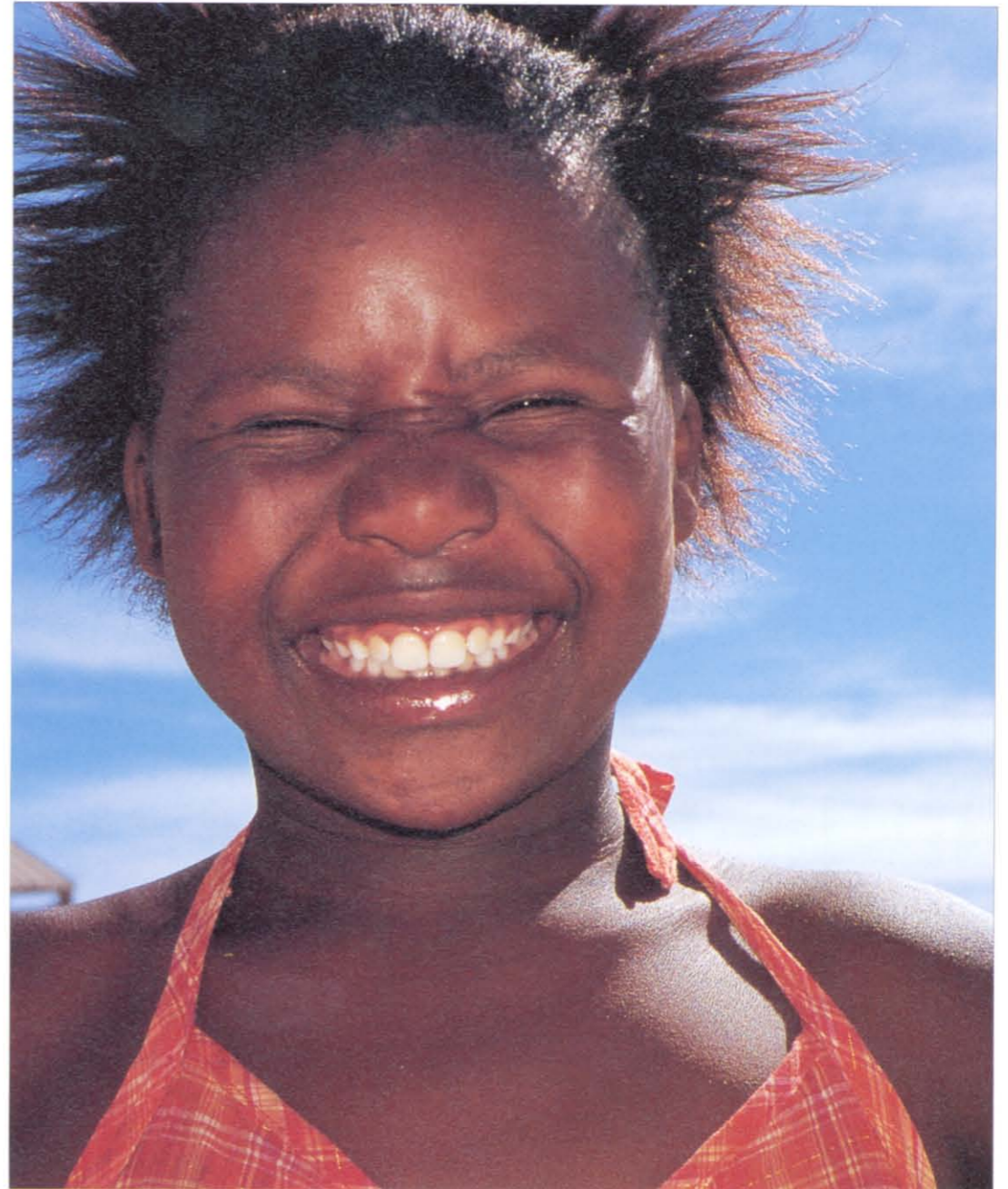
水谷孝次

MERRY AROUND THE WORLD

23カ国、2万人の笑顔と出会う旅 [Vol.2 南アフリカ共和国編]

写真/水谷孝次 構成/立吉和智

「Merry(しあわせ)」にあふれた笑顔のポートレイトを通じて世界に「Merry」を循環させる水谷孝次氏のライフワーク。連載第2回目の舞台は、アパルトヘイトや激しい貧富の差といった負の遺産を抱える国、南アフリカ共和国。



Watching TV & To play

黒人ばかりのエリア、タウンシップの中にあるコンテナの小学校で撮影しました。学校といっても勉強しに来てるのか遊びに来てるのかわからないような場所だけと、みんなとても楽しそうでした。南アフリカで撮影して一番思い出深かったのがこの場所です



●水谷孝次(みずたにこうじ)

http://www.21merry.net/
http://www.remus.dti.ne.jp/mizutani/
アートディレクター。1999年より笑顔を撮影したポスターの展示やボランティアによるごみ拾いなどを通じて、世界に「Merry(しあわせ)」の輪を広げていく「Merry Project」を開始。愛・地球博にて「Merry EXPO」開催。



愛・地球博で展示された「Merry EXPO」の集大成「Merry EXPO Book」の刊行を記念して「Merry EXPO in NAGOYA」がミキモト名古屋店(愛知県名古屋市中区栄3-15-3エフジ栄ビルB1イベントスペース/052-261-1808)にて開催中(3月14日まで)。世界23カ国から集められたMerryな笑顔とメッセージがあなたを包み込みます。



●南アフリカ共和国 Republic of South Africa
国名: プレトリア
言語: 英語、アフリカーンス語、バンツ語(ズールー語、ソト語ほか)の合計11が公用語
人口: 42,718,530人(世界第24位)
GDP: 4,567億ドル(世界第21位)
通貨: ランド

南アでは、治安の悪そうなどンヨリとした場所でも撮影したのですが、僕らが撮影をはじめたらそこに笑いの渦が起こったのです。そのとき、ある人に「あなたにとってMerryとは何ですか?」と尋ねたら、「これまでMerryなことなんて何もなかったけど、今日こんなに笑ったことが最高にMerryだ」と言ってもらえました。南アに笑顔をプレゼントできたことは僕にとってもMerryだったし、幸せのコミュニケーションができたのはカメラのおかげですよ。僕は技術は二の次で、幸せが写っている写真こそが一番いい写真じゃないかと思えます。